



## CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 日本農薬学会第43回大会の御案内
- 講師派遣について
- 農薬科学研究奨励金の交付申請について

### 平成29年度第2回常任評議員会議事録

日 時：平成29年8月5日(土) 13:00～17:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員，第43回大会副実行委員  
員長 計17名，欠席者1名

議 事：

I. 平成29年度第1回常任評議員会議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

#### 1. 財務関係

- ・平成29年度収支の現状（5月1日から7月31日）について報告があった。
- ・7月1日に研究小集会の会計担当者との相談会の開催報告があった。

#### 2. 編集委員会

- ・JPS第42巻3号と和雑誌2号の発刊予定について報告があった。
- ・平成29年度の投稿状況について報告があった。
- ・論文へのアクセス状況について報告があった。
- ・論文掲載料の変更案について審議され可決された。
- ・受賞者論文の和雑誌掲載様式に関して変更が検討された。

#### 3. 環境委員会

- ・平成29年度の活動状況について説明があった。
- ・第一回環境委員会の報告があった。環境委員会の再編と、新たな委員会の名称が検討された。
- ・平成29年度の残留農薬分析セミナー開催予定につ

いて説明があった。

- ・農薬理解促進WGの活動状況について報告があった。

- ・講師派遣に関する報告があった。

#### 4. 将来計画委員会

- ・活動状況について報告があった。

#### 5. ホームページ委員会

- ・平成29年度の活動報告があった。

#### 6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成30年度の日本農薬学会賞の候補者の推薦および選考状況について報告があった。
- ・第15回日本農学進歩賞の候補者推薦について報告があった。

#### 7. 技術士育成推進委員会

- ・今後の活動計画について報告があった。今年度は植物保護技師として農薬学会会員から2名が合格した。

#### 8. 昆虫科学連合

活動状況について報告があった。

#### 9. 植物保護科学連合

- ・平成29年度の日本学術会議シンポジウムでは、当学会からの推薦で定 由直氏（住友化学）が講演する。シンポジウムのテーマは、遺伝子組換え作物と植物保護。

#### 10. 海外渡航経費補助

- ・ワシントンDC（アメリカ）で開催予定の254th American Chemical Society National Meeting & Expositionへの参加に1名の申請があり、補助することに決定した。

#### 11. 農薬科学研究奨励金について

- ・平成29年度農薬科学研究補助金について審査方法が確認された。
- ・交付金の明確な使途報告について検討された。

#### 12. 農学会関連

特になし。

#### 13. 第43回大会関係

- ・大会の準備状況について説明があった。
- ・シンポジウムの準備状況について説明があった。

14. 40周年記念事業関連
  - ・アーカイブ化の進捗状況について報告があった。要旨等の収集作業の目途が立ち、担当業者が決定したので発注を執行する。
15. 研究会等の協賛について
  - ・平成29年11月29日～30日に茨城県県南生涯学習センター（土浦市）で開催予定の第45回構造活性相関シンポジウムに協賛することを承認した。
  - ・平成29年9月13日（水）に北とびあ（東京都北区）で開催予定の第32回報農会シンポジウムに協賛することを承認した。
16. 入退会の報告（平成29年5月1日～平成29年7月31日）
  - ・入退会が承認された。入会は正会員9名、学生2名、団体会員1団体。退会は終身会員1名（ご逝去）、正会員7名。
17. その他
  - ・学生優秀発表賞の設置に関する議論がなされた。
  - ・H29年度第6回常評とH30年度第1回常評の開催について検討された。

#### 第199回常任編集委員会 議事要旨

- 日 時：平成29年4月29日（土）14時～16時30分  
場 所：京都大学農学部総合館 応用生命科学専攻第一セミナー室  
出席者：10名 欠席者：1名  
議 題：
1. 新常任編集委員、編集幹事、事務局の自己紹介  
委員長、常任編集委員、編集事務から自己紹介があった。
  2. 編集委員の役割分担  
審査は、殺虫剤、除草剤、殺菌剤、環境・製剤に分かれて採択の可否を行う。読み物企画は「各地の生産現場から」を継続する。
  3. 投稿規定の確認  
世界的に多くのジャーナルがオープンジャーナル化に向かい、それに伴って掲載料がアップしている。農薬学会誌は以前からオープンジャーナルであるが、現在、掲載料10,000円と安価であることから、値上げをしようかということで一致した。但し、農薬学会会員はこれまで通りに無料とする。
  4. その他
    - ・新編集委員会の方針としては、Impact Factorを上げる努力をする。そのための一つとして、PubMed掲載に再度申請を行うことにした。
    - ・常任編集委員会の開催について、原則年4回の開催と

あり、昨年はメール会議を含め、4回開催した。今年度も同様に常編を開催する予定である。

#### 第200回常任編集委員会 議事要旨

- 日 時：平成29年7月29日（土）14時～16時30分  
場 所：京都大学農学部総合館 応用生命科学専攻第一セミナー室  
出席者：11名 欠席者：1名  
議 事：
1. 論文賞候補論文の決定  
平成30年度日本農薬学会論文賞の選考を行った。40名の編集委員に推薦の依頼をし、17名から18件の推薦があった。推薦された論文の和文要旨をまとめたものを参考にして、常任編集委員による投票を行い、最優秀論文1編、次点の論文1編を選考した。
  2. 掲載料値上げに関して  
前回の常任編集委員会において非会員の掲載料を値上げすることで意見が一致した。編集委員からも意見をいただき、常任編集委員会で掲載料金を3万円に決定した。但し、学会会員はこれまで通り無料とする。
  3. 投稿査読システムの利用に関して  
Editorial ManagerのEditorとしての審査の流れを確認した。
  4. 題目審査に関して  
4月より6編の論文が採択された。常任編集委員による題目審査の際、英文と和文の要旨の整合性について検討・確認がなされた。
  5. 受賞論文（英文、和文）の執筆に関して  
第40巻から受賞論文は農薬誌、JPSともに6頁執筆を依頼していたが、第43巻からは執筆負担も考慮して、英文6頁、和文は1頁執筆して貰うことに決定した。受賞論文の英文校閲費は他の論文と同様に編集事務局（学会）で負担する。
  6. 読み物シリーズおよび新企画（見開きのミニレビュー等）に関して  
「各地の生産現場から」について、和雑誌第43巻1号と2号の執筆予定を決めた。新企画について見開き2ページ程度のレビューの提案があり、若手研究者へ執筆依頼が促された。
  7. Special Issueについて  
浅見委員から、すでに数名に執筆を依頼中との報告があった。掲載はJPS第43巻3.4号で決定した。
  8. その他
    - ・JPSのIFは現在0.76であるが、IF向上に向けて鋭意努力することで全員の意見が一致した。

平成29年度学術小集会委員長との懇談会議事録

日 時：平成29年9月9日(土) 15:30～17:00  
会 場：日本植物防疫協会 地下会議室  
出席者：学術小集会委員長7名(代理出席1名)、常任評議員会メンバー13名(欠席4名)

議 事：

1. 小集会活動報告
  - ・平成28年度の活動報告があった。
2. 今後の活動方針
  - ・平成29年度の活動計画(一部開催済み)が報告された。
3. 小集会から常任評議員会への連絡・要望など
  - ・生物活性研究会の秋田大会共催について、非会員の聴講には大会参加費の支払いを要請する。講演者には大会要旨集用(A4, 1ページ)と別冊用要旨を作成していただく。
  - ・紙媒体のニューズレターは必要か。ニューズレター掲載の情報をPDFにしてメールに添付してはどうか。ニューズレターをなるべく早くWebページに掲載する。ニューズレターの継続について、今後常評で議論を行う。
4. 常任評議員会から小集会への連絡・要望など
  - ・小集会開催後、シンポジアとして学会誌への寄稿を依頼した。
  - ・会計担当者との打ち合わせについて、以下について留意していただく。
    - 期末ゼロ原則
    - 他学会との共催の留意点(領収書の原本の提出)
    - 次年度小集会スケジュールの徹底(11月末までに開催)
  - ・講演要旨のアーカイブ化の進捗状況について報告があった。直接業者に納期(年内)を確認する。
  - ・各委員長に農業科学研究奨励金の審査委員担当を依頼した。また研究奨励金や海外渡航援助への応募の周知を依頼した。
  - ・研究会間の開催スケジュールの調整について依頼があった。
  - ・学会への入会案内を各小集会の際に配布してもらう。

平成30年度第2回

日本農薬学会賞受賞者選考委員会議事録

日 時：平成29年10月7日(土) 13:00～15:00  
場 所：日本植物防疫協会本部地下会議室  
出席者：12名  
議 事：

1. 選考委員の2/3以上が出席していることから、選考委員会は成立していることを確認した。
2. 推薦のあった奨励賞、業績賞(研究)、業績賞(技術)の各候補について、選考に関する内規に基づいて厳正に選考を行い、奨励賞2件、業績賞(研究)1件、業績賞(技術)1件の授賞候補を決定した。
3. 論文賞については、学会誌編集委員会より推薦のあった論文を授賞候補とすることを決定した。
4. 今後、上記授賞候補に対して、評議員による授賞可否投票の手続きに入る。

会 員 動 静

(平成29年5月1日～平成29年8月31日)

入 会

正会員

吉田幸太郎	石丸 梢	村田 洋平	阿野 貴司
小原 仁美	曳埜 忍	定 由直	仲野 沙織
小藤 敦子	杉浦 伸明	二方 久	横井 絢香
山田 誠			

学生会員

西塚 紘明 江邊 正平

団体会員

株式会社環境技研

(受付順)

退 会

名誉会員

藤田 稔夫

終身会員

立川 涼

正会員

板倉 裕子	池内 秀幸	石田 実希	高田 大裕
山岸 卓矢	山岸 卓矢	杉山 恵乃	山本 好伸
上村 一平	大石 桂輔	MALHAT, Farag	
猿渡 耕典			

学生会員

松野 佑哉 AYMAN, Saber PIYANUCH, Jaikaew

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛、後援する会議等  
**2017年**

11月

21日(火) 第24回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主 催：日本農薬学会、農薬レギュラトリーサイエンス研究会

会 場：さいたま市民会館おおみや 小ホール

〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町3-47-8

U R L : <http://pssj2.jp/committee/regulatory/regula25.html>

**29日(水)～30日(木) 第45回構造活性相関シンポジウム**

主 催：日本薬学会構造活性相関部会

共催・協賛等：日本化学会，日本農芸化学会，日本分析化学会，有機合成化学協会

会 場：茨城県県南生涯学習センター

U R L : [http://bukai.pharm.or.jp/bukai\\_kozo/jindex.html](http://bukai.pharm.or.jp/bukai_kozo/jindex.html)

**12月**

**2日(土) 平成29年度日本学術会議公開シンポジウム**

**「遺伝子組換え作物と植物保護」**

主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会，植物保護科学連合

会 場：東京大学農学部2号館 化学第一教室 [〒113-8567 東京都文京区弥生1-1-1]

**2018年**

**3月**

**25日(日)～27日(火) 第62回日本応用動物昆虫学会**

主 催：日本応用動物昆虫学会

会 場：鹿児島大学 [〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号]

U R L : <http://odokon.org>

**25日(日)～27日(火) 平成30年度日本植物病理学会大会**

主 催：日本植物病理学会

会 場：神戸国際会議場 [〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]

U R L : <http://www.ppsj.org/index.html>

**28日(水) 第28回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム**

主 催：日本植物病理学会，殺菌剤耐性菌研究会

会 場：神戸大学大学院農学研究科・農学部C101 [〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1]

U R L : <http://www.taiseikin.jp/>

**4月**

**14日(土)～15日(日) 日本雑草学会第57回大会**

主 催：日本雑草学会

会 場：東京農工大学農学部 府中キャンパス [〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8]

U R L : <http://wssj.jp>

**5月**

**25日(金)～27日(日) 日本農薬学会第43回大会**

主 催：日本農薬学会

会 場：秋田県立大学(秋田キャンパス) [〒010-0195 秋田県秋田市下新城野宇街道端西241-438]

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/43/taikai43.html>

**学会主催会議等の詳細**

主 催：日本農薬学会，農薬レギュラトリーサイエンス研究会

日 時：平成29年11月21日(火)

会 場：さいたま市民会館おおみや 小ホール

〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町3-47-8

U R L : <http://pssj2.jp/committee/regulatory/regula25.html>

テーマ：「農薬の理解はどうして進まないのか」

主 旨：

食品安全基本法施行，食品安全委員会発足，リスク分析(リスク評価，リスク管理，リスクコミュニケーション)の推進と，食と農薬を取り巻く科学的な評価のできる環境は出来上がりつつあり，毎年いろいろな場面において，農薬学会も含めて情報交流などの活動が進められています。しかし，現実にはまだまだ農薬は感覚的には市民権を得ている状況ではないように感じられます。どこにどういった課題があり，どう考えるのか，そういった点を踏まえているいろいろな立場の方からお話を聞きます。

総合討論では，農薬に関わる者たちがどういったことを念頭に，今後，協力してリスク分析等を進めていくべきかの議論の場としたいと思います。

**講演：**

9:30 受付開始

10:00 開会・挨拶

10:10 「農薬業界で働くということ」

萩原 彰子 氏(アリスライフサイエンス株式会社アジア事業部門製品開発部開発グループ 開発マネージャー)

11:00 「農薬をはじめとした化学物質のリスクコミュニケーションの現状と課題」

姫田 尚 氏(食品安全委員会フェロー，公益社団法人中央畜産会 副会長)

11:50 休憩，昼食

13:00 「農薬はどう教えられているか」他

宮川 恒 氏(京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻 生物調節化学研究室 教授)

13:50 「農業生産者からの意見」

森田 泰弘 氏(埼玉県 いちご，露地野菜他生産農家)

14:20 「消費者からみた現実の食と農薬のイメージ」

河野 康子 氏(元一般社団法人全国消費者団体連合会 事務局長)

- 15:20 「科学情報はなぜ伝わらないのか？ ジャーナリズムから考える理由と方策」  
松永 和紀 氏（科学ジャーナリスト）
- 16:10 総合討論  
進行役：梅津 憲治 氏（元農薬学会会長，元大塚化学株式会社）
- 16:50 閉会
- 17:00 情報交換会

研究会参加費：4000円 情報交換会費：5000円

参加申込先：

（一般財団法人）残留農薬研究所 坂真智子 までメールで研究会出欠，情報交換会出欠をご連絡ください。参加費などは当日会場でお支払いください。E-mail: saka@iet.or.jp

申し込みを戴きましたら，確認のため参加申込み受理しました旨，返信致します。



## 日本農薬学会第43回大会の御案内

日本農薬学会第43回大会を平成30年5月25日(金)から5月27日(日)までの3日間にわたって秋田ビューホテルおよび秋田県立大学(秋田キャンパス)にて開催いたします。本学会員ならびにご関心をお持ちの皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。一般講演の充実のため、学術小集会などの発表で評価されたご研究についても本大会での発表を歓迎いたします。植物防疫関係2学会(日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会)および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員扱いとなりますので、お近くの関係学会員の方に参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ち申し上げます。

一般講演の申込みは平成30年2月1日(木)からを予定しております。大会の詳細は大会ホームページで随時お知らせいたします。

お問い合わせ：

秋田県立大学 生物資源科学部

日本農薬学会第43回大会組織委員会

住所：〒010-0195 秋田県秋田市下新城野宇街道端西241-438

TEL：018-872-1500

E-mail: [tamo\\_chem@akita-pu.ac.jp](mailto:tamo_chem@akita-pu.ac.jp)

担当：田母神 繁

## 講師派遣について

日本農薬学会では、農薬に関する正しい理解の拡大、研究成果の普及および学会活動に対する理解を深めていただくため、シンポジウムの開催や広報活動等を行っております。その一環として、各機関等への講師派遣の活動を実施しています。この活動を通して、学会としての中立的な立場から科学的知見を基にした情報を提供することで、農薬に関する一般市民や農業関係者等の知識の向上や、食料生産や食品安全などに対する総合的な理解を深めていただくことを目指しています。

本活動にご興味がおございましたら、詳細については、下記Websiteをご参照いただくとともに、日本農薬学会事務局にご連絡ください。

U R L：[http://pssj2.jp/overview/semina/haken\\_16.html](http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html)

## 記

### 1. 講師派遣に関する費用

講師謝金や交通費は基本的には不要です。ただし、遠方などの場合は、交通費等の実費をご負担いただくことがありますので、事前にご確認ください。

### 2. お問い合わせ、ご依頼の連絡先

日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10 日本植物防疫協会ビル5階

電話番号 03-5980-0281

ファックス番号 03-5980-0282

E-mail [nouyaku@mocha.ocn.ne.jp](mailto:nouyaku@mocha.ocn.ne.jp)

## 農薬科学研究奨励金交付申請について

日本農薬学会では、作物保護に必須の資材である農薬の研究を支えることで社会に貢献することを目的とし、その基盤となる化学と生物の領域も含め、広く農薬科学研究全般に対して農薬科学研究奨励金(1件50万円)を交付しています。その成果は日本農薬学会大会において発表され、また一部は研究論文として日本農薬学会誌に掲載されています。

平成30年度につきましても、下記の応募要領に従い募集します(交付は3件)。なお、当研究奨励金は、他の競争的資金の獲得が難しい研究者の方あるいは研究課題に対して支援することを優先します。

(対象となる農薬科学の研究テーマ)

1. 作用機構
2. 抵抗性
3. 生物活性・検定法
4. 天然物化学
5. 分子設計・合成プロセス
6. 代謝・分解・動態
7. 残留性・残留分析
8. 環境科学
9. 生態影響
10. レギュラトリーサイエンス
11. 製剤・施用法
12. 生物農薬
13. 遺伝子科学
14. 毒性

すべて、内容は基礎、応用を問いません。

(応募資格)

筆頭研究者は農薬学会正会員（学生会員を含む）であり、かつ申請年度後少なくとも3年間は正会員であること。なお、応募にあたっては、必ず所属長の承認を得てから応募して下さい。

（ここでいう所属長とは、指導教員、室長、部長、所長あるいは研究を行う機関の責任者等を意味します。）

(研究期間)

研究奨励金が対象とする研究期間は奨励金を交付する6月当初から1年間です。

(研究成果の報告・発表義務)

研究成果は助成期間終了後、1ヵ月以内に所定の様式にしたがって報告するとともに、1年以内に農薬学会大会で口頭発表していただきます。成果の学会誌への論文発表もご検討願います。

(研究奨励金の規模)

原則として、1件50万円、年間3件以内の試験研究に対し、奨励金を交付いたします。研究遂行の目的であれば、特に用途の限定はありません。本奨励金は、応募者が所属する組織の間接経費・管理経費・共通経費には使用できません。

(応募方法)

所定の農薬科学研究奨励金交付申請書用紙に必要事項を記入し、平成29年11月30日（当日消印有効）までに日本農薬学会事務局宛に郵送して下さい。奨励金申請書・研究成果報告書の書式は日本農薬学会ホームページからダウンロード（<http://pssj2.jp/inside/grant17.html>）するか、日本農薬学会事務局にご請求ください。

(奨励金の交付)

平成30年度の農薬学会総会（平成30年5月25日予定）による予算の承認を経た後、平成30年6月以降に交付致します。大学・研究機関等には、寄付金等（オーバーヘッド徴収なし）として指定口座に振り込みますので、経理部門等が発行する受領証を提出していただきます。

連絡先：〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号

日本植物防疫協会内 日本農薬学会 事務局

電話：03-5980-0281 FAX: 03-5980-0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp